

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	女川町立女川第一小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	2	2	1	2	2		10	18
児童数	38	49	46	39	48	50		270	

研究の概要

1. 研究主題

豊かな心と確かな学力をもつ児童の育成  
～算数科における少人数指導の工夫を通して～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

**【全学年・算数】**

新学習指導要領では、基礎・基本を確実に身に付けるとともに、自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する能力や、豊かな人間性、健康と体力などの「生きる力」をはぐくむことを基本的なねらいとしている。「心の教育」の充実と「確かな学力」の向上がその重要なポイントであり、これからの社会を担う子供達が主体的・創造的に生きていくために、一人一人に「確かな学力」を身に付けさせるための創意工夫を生かした取組が求められている。

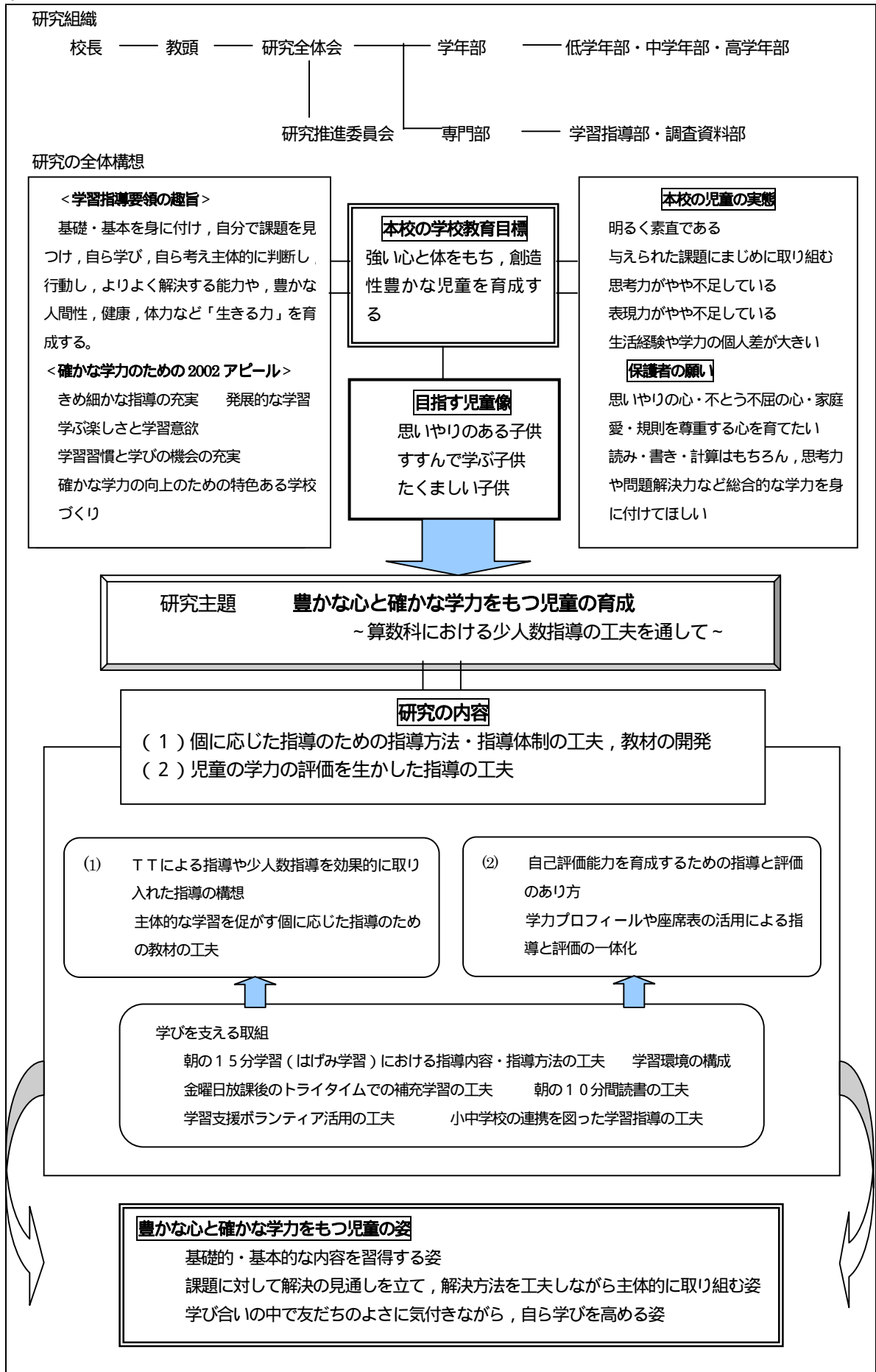
本研究に取り組むにあたり、「児童にはぐくまれてきているよさ」と「児童が伸び悩んでいる課題」の両面からその実態をとらえた。そして、これまでの指導のあり方を振り返ることで、その「背景と要因」を明らかにした。そこで浮き彫りになった「指導上の課題」を受け、児童が学ぶ喜びを味わいながら充実感をもって学習に取り組める授業の創造と、一人一人の実態に応じたきめ細かな指導の充実によって、「豊かな心と確かな学力」をもつ児童の姿の実現を目指していきたいと考えた。

今年度は特に、学習の積み重ねが必要であり、理解や定着の程度の差が大きい『算数科』において、少人数指導のよさを生かした学習指導の工夫を通して児童の学力の向上を図ってきた。

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ      豊かな心と確かな学力をもつ児童の育成 算数科における少人数指導の工夫を通して</p> <p>研究仮説 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫，教材の開発 児童の学力の評価を生かした指導の工夫</p> <p>研究の内容 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫，教材の開発</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>個に応じた指導をしていくための単元の展開や学習活動はどうあればよいか，TT方式による指導や少人数指導をどの場面でどのように取り入れていくと効果的なのか，単元の指導構想の上立った実践・検証を行う。</li> <li>児童の主体的な学習を促し生み出すような教材，学習における個々の児童の特性や基礎的・基本的な内容の習得状況に応じた教材，の二つに視点を置いた教材の工夫を行う。</li> </ul> <p>児童の学力の評価を生かした指導の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童が自分の学習の状況进行评估し，よりよい学びをつくりだしていくような自己評価能力を育成するための指導と評価のあり方を工夫する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>指導に生かす「学力プロフィール」の作成や座席表の活用によって評価と指導の一体化を図る。</li> </ul>
	平成16年度

(3) 研究推進体制



## 平成15年度の研究成果及び今後の課題

### 1. 研究成果

#### 「指導方法・指導体制の工夫」に関して

児童の実態や学習指導のねらい、学習状況等に応じたTTによる指導や少人数指導を、1単元や1時間の指導の中に取り入れたことで、授業改善を心がけた指導の工夫が図られ、個に応じた指導をより充実させることができるようになった。本校では、<学級や学年を等質に分割した少人数指導> <到達度としての学力、学習速度、学習スタイルなどに応じた習熟度別少人数指導>と、<児童の興味・関心、学習速度に応じた課題別少人数指導>、そして、<学習方法や興味・関心に応じた学習方法別少人数指導>の、主に四つを取り入れた授業実践に取り組んできた。そのような少人数指導を取り入れることにより、

個別指導の機会の増大

個に応じた場の設定の拡大

課題の選択、追求方法の選択など選択肢の広がり

学び合いの機会の増大

が図られた。それによって、「わかった・できた」と実感しながら学習を積み重ねる児童の姿や、学習への自信と意欲をもった児童の姿が見られるようになった。

本研究における『少人数指導の学習モデル』は、(資料1)に示してある。

#### 「教材の開発」に関して

本研究では、一人一人に応じた指導をするための教材開発の工夫に、「児童の主体的な学習を促し生み出すような教材」、「学習における個々の児童の特性や基礎的・基本的な内容の習得状況に応じた教材」の二つの視点をもって取り組んできた。開発にあたっては、教材を単元の指導計画まで含めた広いとらえ方をしている。少人数指導を取り入れた授業改善における教材の工夫により、児童一人一人が自分なりに考え解決する力が少しずつ身に付くとともに、基礎的・基本的な内容の定着につながってきている。

ア 少人数指導を取り入れた単元の指導計画の工夫・改善により、学力の状況に応じた主体的な学びの姿が見られるようになった。

イ 個々の児童の特性に応じた「補充・定着・発展」の学習教材の工夫により、基礎的・基本的な内容を確実に身に付ける姿や既習事項を活用しながら意欲的に取り組む姿、新たな課題を発見する姿が見られるようになった。

ウ 児童の実態に即した少人数指導のコース別学習における教材・教具の工夫により、基礎的・基本的な内容を確実に身に付ける姿や自分の考えをまとめたり説明したりする力を身に付けていく姿が見られるようになり、児童相互の学び合いが充実してきた。

#### 「児童の学力の評価を生かした指導の工夫」に関して

本研究では、児童が自分の学習状況の評価し、よりよい学びをつくりだしていく力を、児童の自己評価能力ととらえ、学習過程における自分の学びを「学習の振り返り」の場面で評価することを中心として、その育成に取り組んできた。その方法は、ノートや振り返りカードへの記入が主である。この取組により、教師は児童が記入したものを基にその定着状況などを分析し、指導の工夫や個人差への対応など指導に生かすことができた。また、児童にとっては、学ぶ意欲や課題に進んで取り組もうとする態度の形成と、自己のつまずきの把握につながった。さらに、少人数指導における自分に合ったコースを選択する力も育ってきた。そして、教師による評価については、座席表や学力プロフィール等を活用して、担任と少人数担当が連携した評価の工夫を行ってきた。

ア 観点をしぼった学習の振り返りカードや、ノートでの自己評価の工夫により、児童の興味・関心・意欲や学習スタイル、思考力、表現力、学習の達成度の把握が行いやすくなった。そして、それを個への指導に生かすことにより、基礎的・基本的な内容の確実な定着と学習意欲の向上が図られた。また、児童の側にとっても自分の学習状況を的確に把握する自己評価能力と少人数指導での自分に合ったコース選択力の育成につながった。

イ 座席表や学力プロフィールを活用した評価の工夫により、児童の学習状況の的確な把握が行われ、個への対応の工夫が図られた。また、担任と少人数担当の連携を生かした指導の工夫が図られた。

#### 「学びを支える取組」に関して

ア 基本的な学習習慣やノート指導などを全校の共通課題として取り組んだことで、児童の学びの構えが養われてきている。

イ 教科の学習と関連付けて取り組むことで、児童一人一人の基本となる学力が向上してきている。

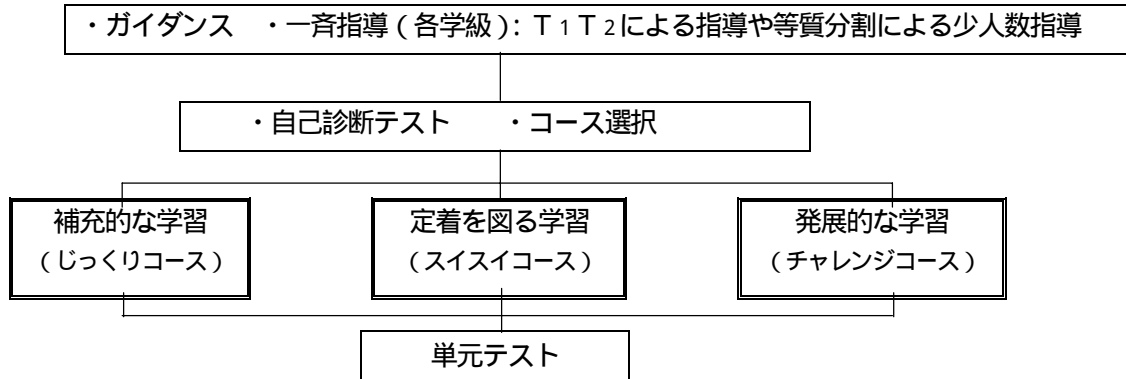
ウ 町内の小・中学校、保護者に研究の取組を積極的に公開してきた。各学校から示唆に富んだ助言をもらうことができ、教員の指導力向上につながっている。

(資料1) 『少人数指導の学習モデル』

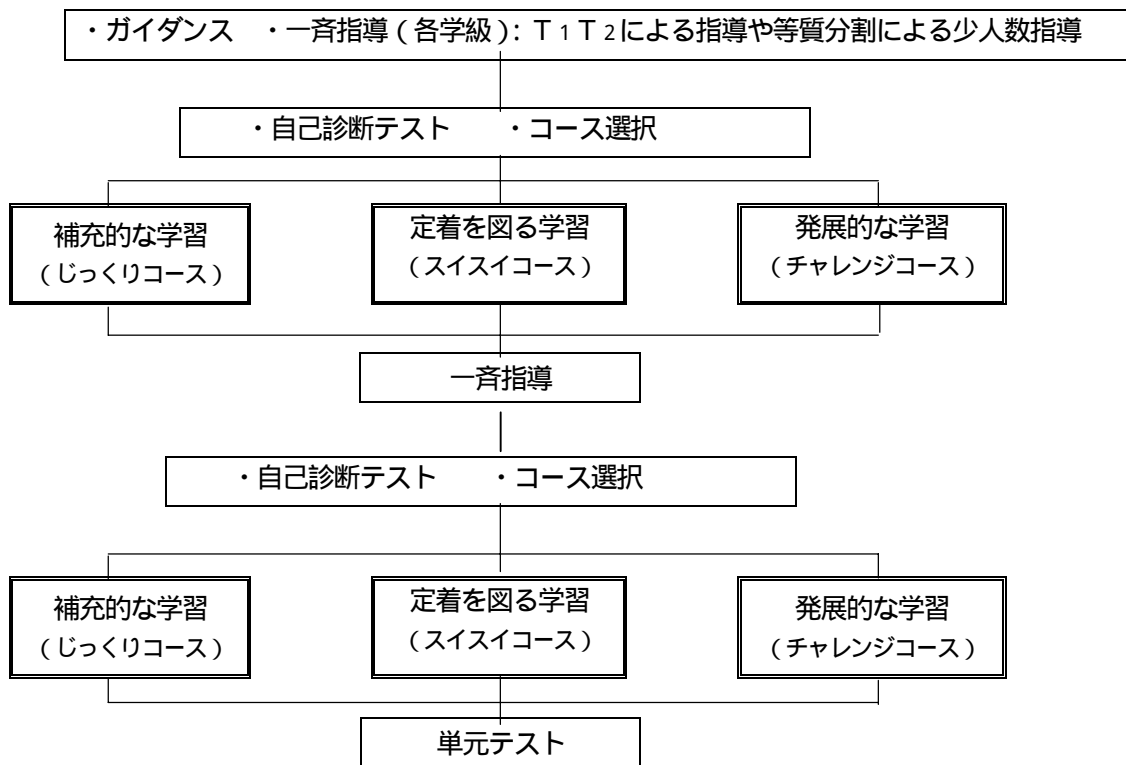
A 習熟度別少人数指導

習熟度別少人数指導を取り入れた単元の指導計画は、次のようなものが基本となる。

<到達度としての学力，学習速度に応じたモデル>



小单元ごとに区切って行う場合もある。



主に，数と計算・量と測定の領域で取り入れている。

コース別学習は，学年全体で行う場合が多い。なお，児童の実態や選択によっては，コース数を補充一つ・定着二つにするなど，学年ごとに指導方法を工夫している。

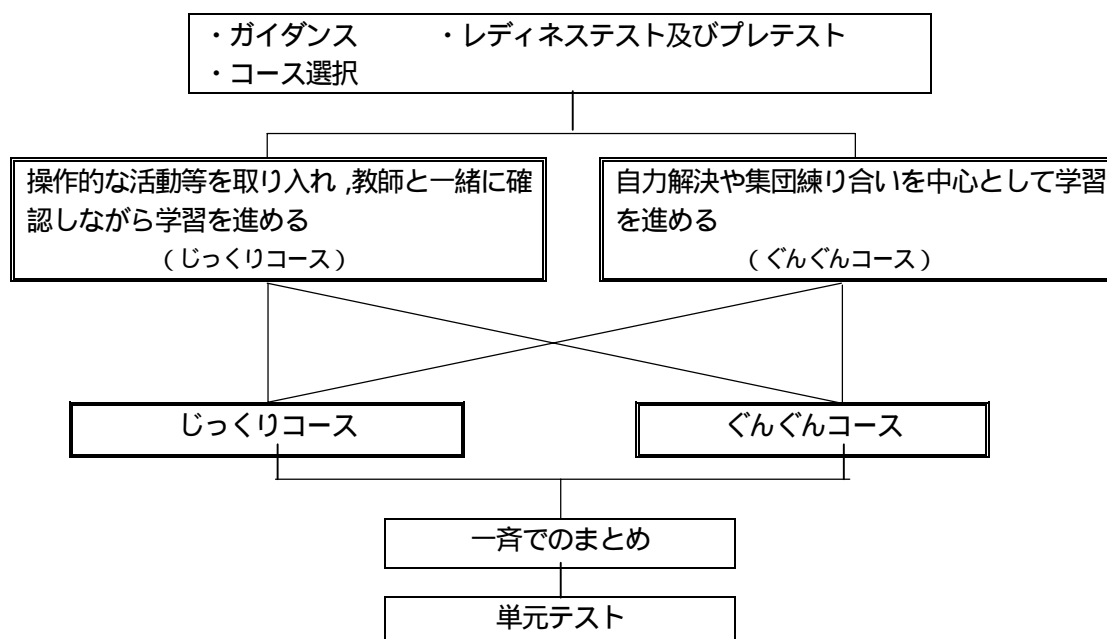
単元によっては，コース別学習のあとに一斉でのまとめの時間を設ける場合もある。

それぞれのコースでの指導過程を工夫することで，個に応じた指導が充実する。補足的な学習・発展的な学習を効果的に組み入れることで，一人一人のよさを伸ばすことができる。

「はげみ学習」を活用して，学習の進度に合わせて習熟問題に取り組んだり，補充・発展問題に取り組んだりする時間をもつようにしている。

(資料1 )

<学習スタイル, 到達度としての学力, 学習速度に応じたモデル>



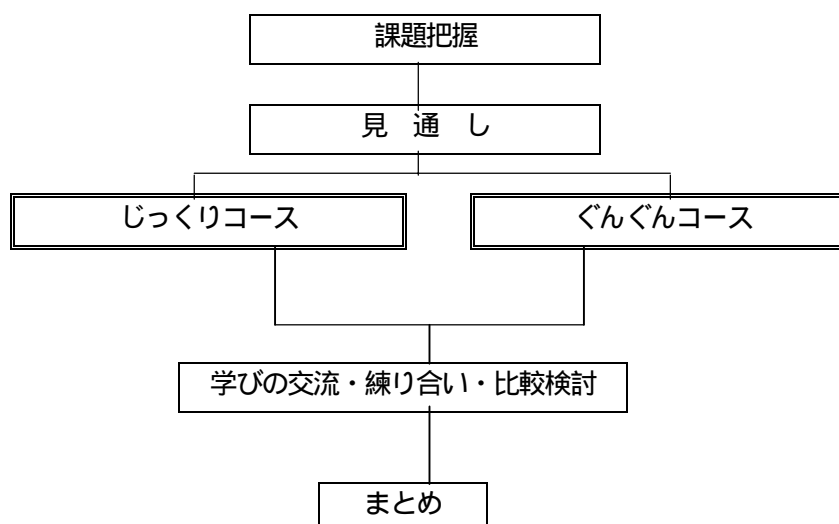
数と計算・量と測定・図形・数量関係の各領域で取り入れ, 学級内や学年内習熟度別で行っている。(コースは三つの場合もある。また, コース名も学年によって変わる。)

選択したコースでの学習が合わない場合は, コース間の移動を可能とする。

小単元ごとに, 診断テストを入れてこのパターンを繰り返す場合もある。

発言の機会が増え, 表現力を伸ばすことができる。「ぐんぐんコース」では, 適用問題や発展問題を解く時間が十分に確保できる。「じっくりコース」では, 学習内容の確実な理解が図れるが, 教師主導になりがちなので, 主体的な学習を促がず授業展開を工夫している。

1 単位時間の中で取り入れる場合もある。



移動の時間をとらずに, 1 教室を二つに分けて (教室の前と後ろ) 行う。

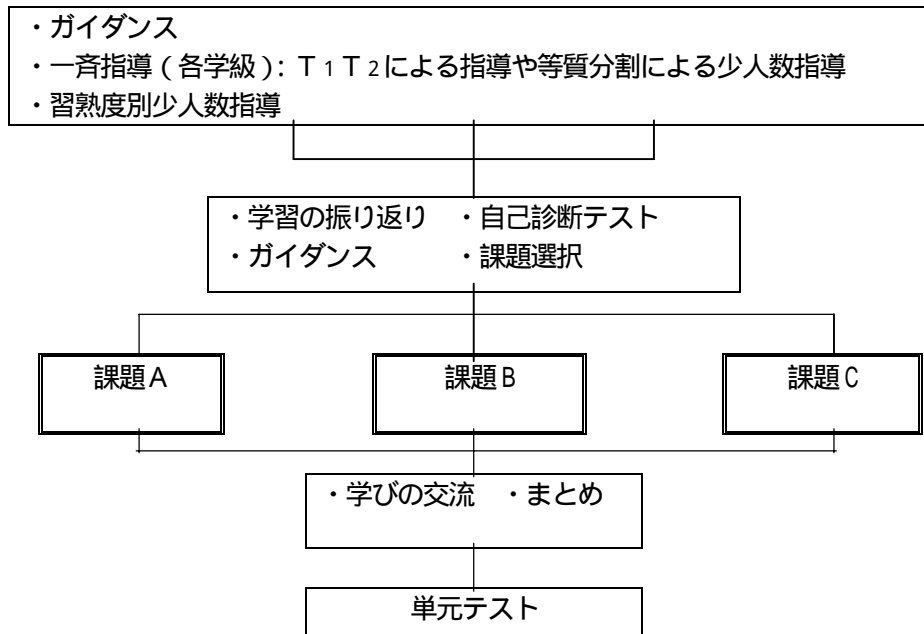
コースごとに学習する時間と, 全体にもどってまとめる時間を決めて行うが, 学習内容や児童の実態によっては, コースごとにまとめを行う場合もある。

(資料1 )

B 課題別少人数指導

課題別少人数指導を取り入れた単元の指導計画は、次のようなものが基本となる。

<興味・関心，学習速度に応じたモデル>



主に，学年内課題別指導で行っている。

単元の一連の学習が終了した段階で行うことが多い。学習した内容を自分の考えで適用してみたり，これまで考えてきたことを別の視点からとらえ直したりする場として設定する。また，問題を発展させて考える場や学び直しの場合として設定することも考えている。

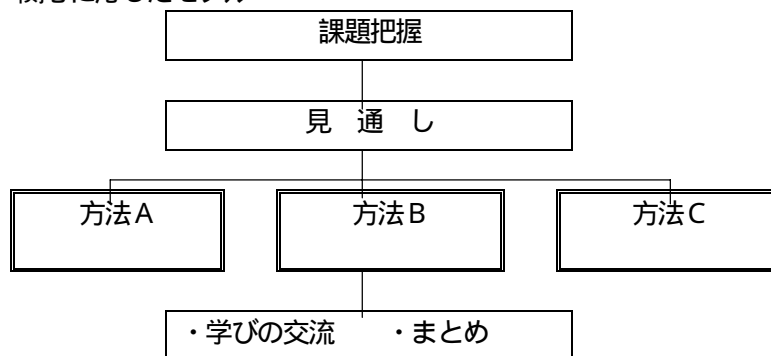
可能な限り，一人一人の児童の願いや実態に沿った形で，自ら学習する課題を選択することができるようにしている。

学習意欲が高まり，主体的な学習活動を充実させることができる。

C 学習方法別少人数指導

学習方法別少人数指導を取り入れた単元の指導計画は，次のようなものが基本となる。

<学習方法，興味・関心に応じたモデル>



主に，図形や数量関係の領域で取り入れており，1単位時間の扱いで行う。

学級内での少人数指導が主であるが，学習内容によっては学年内の指導も行っている。

学習方法を選択して取り組むので，主体的な学習活動を充実させることができる。

## 2. 今後の課題

「指導方法・指導体制の工夫」に関して

個に応じた指導とは、一人一人の児童が「分かった」「できた」という実感を持ちながら、学ぶことの楽しさを味わうことを大切にされた指導であることを、研究を通して再認識した。そこで、少人数指導のよさを生かした授業改善へ向け、次の点を課題として更に研究を深めていきたい。

- ア 少人数指導の効果を高めるために、学習内容や単元に合った学習集団の編成や指導法を更に工夫していく必要がある。
- イ 何のための活動か、その目的を明確にした算数的な活動を充実することで、問題解決能力や思考力、判断力等を一層身に付け、算数好きな児童を増やしていきたい。
- ウ 一人一人の児童が、「自分は何が分かって、何ができるようになったのか」、自分の伸びがわかる学習展開の工夫を更に行っていききたい。特に、課題解決的な学習における「練り合い」の展開を充実させ、児童が新たな見方や考え方を共有したり広げたりしていくことを大切にしていきたい。
- エ 少人数のコースの中でも、特に個別指導を要する児童への対応の工夫が必要である。

「教材の開発」に関して

算数の学習内容は、児童が既習事項を活用して問題解決することを通して、新しい内容を習得できるように系統立てられている。そして、その内容は、【A：約束として教える内容】と【B：児童が考え、見いだす内容】の大きく2つに分けられる。算数の内容の分類に即した教材の開発、そして、どのような少人数指導のどのような学習集団で指導するかに応じた教材の開発をさらに進めていくことが必要である。

また、学習速度や内容の習得状況に応じて、基礎的・基本的な内容の定着を図るための「補充的な課題」や、学習内容の理解を深め、数学的な考え方を伸ばすための「発展的な課題」を、更に工夫することが必要である。

「児童の学力の評価を生かした指導の工夫」に関して

基礎・基本を確実に身に付けさせるためには、児童の学習の習得状況を把握して指導に生かすための、評価規準と評価方法を考えなければならない。そして、教師による評価と児童による自己評価・相互評価を連動させて、より適切な評価と指導を実施していくことが必要である。

教師による評価においては、個に応じた支援の具体化と、児童の学習の伸びの自覚化を図る視点から、その場面と時期、方法を更に工夫・改善していく必要がある。特に、児童一人一人に確かな学力を身に付けていく学習展開の工夫・改善を基に、1時間の学習の過程における評価を工夫して、指導に生かしていくことが大切である。そして、少人数指導における教師間の連携を生かした評価の工夫・改善をさらに進めていきたいと考える。

学力プロフィールについては、各学年において形式を工夫し、作成・活用を図ってきた。個に応じた指導に役立ち、評価の累積にも活用しやすいものを、これまでの研究を基に、更に工夫・改善していく必要がある。

「学びを支える取組」に関して

「教師が教えること」と「児童が学んでいくこと」を明確にした取組をする必要がある。また、学校の取組を家庭や地域にこれまで以上に発信し、家庭の協力を得ながら児童を育てていく必要がある。児童の学びを支える取組が、学力向上には欠かせない。

### 学力把握のための学校としての取組

学習内容の習得状況や基本的な計算力、家庭での学習や生活を知り、単元の指導の構想に生かすとともに、児童のよさやつまずきの把握と個に応じた指導の工夫に役立てる。

標準学力検査（5月、2月）

四則演算定着度調査（6月）

町内一斉の学習内容習得度調査（7月、12月、2月）

児童、保護者対象意識調査（5月）

## フロンティアスクールとしての研究成果の普及

### 【平成15年度】

#### 1. 実践研究発表会の開催

日 時	平成16年1月27日(火)	午前8時45分～午後17時
場所及び対象	女川第一小学校	管内小中学校及び高等学校
内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学びを支える取組より「朝読書」と「はげみ学習」の公開</li> <li>・ 2, 3, 6年生の算数科の少人数指導による授業公開と授業検討を中心とした分科会</li> <li>・ 女川町内各小中学校による学力向上のための取組を紹介したワークショップ</li> <li>・ 教育講演会 講師 宮城教育大学教授 相澤 秀夫先生</li> </ul>	

#### 2. 学力向上フロンティア学習会の開催

～本校教員の資質の向上はもちろん、フロンティアスクールである女川一小的取組を広め、町内全小中学校の学力向上の推進を図るための学習会

- ・ 第1回学習会：「研究主題のとらえ方，研究内容，研究の進め方，指導案の形式等について」
- ・ 第2回学習会：「指導方法・指導体制のあり方について～校内授業研究会における指導」
- ・ 第3回学習会：「学習評価と評価の生かし方～CRTを学習指導に有効活用するために」
- ・ 第4回学習会：「習得型の学習指導のあり方～町内小中学校への公開授業と研究協議」
 

公開授業	4年「三角形のなかまを調べよう」
------	------------------
- ・ 第5回学習会：「個に応じたきめ細かな指導について～公開授業と講話」
 

公開授業	5年「面積の求め方を考えよう」
講 話	「学力向上への取組」
	宮城教育大学 教授 相澤 秀夫 先生

#### 3. ホームページでの情報提供

アドレス <http://onagawa1sho.myswan.ne.jp/>  
 内 容 本校の取組，授業公開案内

#### 4. フロンティアティーチャ としての研究成果普及のための活動

町教育研究会運営委員会や算数部会，中堅教員研修会での「フロンティアスクールとしての取組」  
 についての話題提供

### 【平成16年度】

#### 1. 実践研究発表会の開催

日 時 平成16年11月26日(金)

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	14年度からの継続校		
【学校規模】	6学級以下 13～18学級 25学級以上	7～12学級 19～24学級		
【指導体制】	少人数指導 一部教科担任制	TTによる指導 その他		
【研究教科】	国語 生活 体育	社会 音楽 その他	算数 図画工作	理科 家庭
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】		有	無	